

一スタッフ紹介一

役 職	スタッフ名
技術科長	河野 栄治(6月異動)
技術科長代理	中西 潤
統括主査	中谷 暁洋
学術主査	岩本 匡史
技術主査	奥田 重之
主 査	爲廣 理沙子
	町田 麻実
	小谷 哲也
	吉田 光海
	佐々木 啓人
	三角 定弘
	中平 大志
	坂元 弘美
	金口 優生
	森田 庸介
	西 祐樹
	甲斐 貴久
	川崎 勇司

一概要一

当院臨床工学科では、院内における生命維持管理装置をはじめとした多種多様な医療機器・物品の操作および保守管理業務を行っている。臨床においては、集中治療室、手術室、血管造影室、病棟、外来など各部署での呼吸、循環、代謝、機器関連業務に従事し、日々の診療を支援している。近年、医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進が図られる中、多職種で形成されるチーム医療に積極的に参画している。さらに、救命救急センター併設による救命救急医療体制に合わせるべく、24時間365日院内に常駐可能な当直体制を整え、緊急対応に備えている。

また、病院外において、災害拠点病院の使命により災害対策にも注力し、実災害に備えた災害訓練実施の際は積極的に活動を行っている。

2017年度は技術科長以下17名、総数18名のスタッフにより臨床工学科業務開始となる予定であったが、昨年度末より病休者の復帰が実現しないまま17名でスタートすることとなった。さらに6月には、技術科長の血液浄化センター参事への人事異動によりスタッフ数が1名削減となり、同日より、技術科長代理以下主査級4名含む総数17名(病休1名含む)で年度途中での再スタートを切る形となった。

新体制にあたり、まず臨床工学科スタッフの組織再構築化を図るため、従来の体制である血液浄化関連、心臓関連、呼吸関連、ICU/EICU関連、機器管理関連の5部門によるチーム業務体制から、新たに設定した4つのグループに再編成(呼吸、循環、代謝、機器)した。また、それぞれのグ

ループにリーダーを設定し、人員の再配置およびグループ体制の組織化を行った。各スタッフは通常の日常シフト業務をベースにそれぞれ、呼吸、循環、代謝チーム専門スタッフとなり所属チーム領域における、より専門性の高い業務に従事することによるチームおよび個々のスキルアップを図る体制とした。また、各チーム業務の質向上および知識習得状況は、他のチームへ情報共有することによりお互いの知識技術向上への相乗効果を期待し、結果、呼吸関連ではPSG、CPAP外来関連業務件数が充実したほか、循環関連では体外循環症例や補助循環症例はもとより、植込みデバイス関連業務やデバイス外来業務、さらにはカテーテルアブレーション治療など当院における新たな分野に業務介入を行っている。代謝関連では、血液浄化センターでの透析業務をはじめ、集中治療領域での血液浄化業務その他今年度途中で本格的に運用が開始された経皮的血管形成術(Percutaneous Transluminal Angioplasty; PTA)関連業務が臨床工学科の新たな業務拡充の一つとなっている。

一認定資格など取得状況一

資 格	人 数
体外循環技術認定士	4名
3学会合同呼吸療法認定士	12名
CPAP療法士認定	2名
不整脈治療専門臨床工学技士	1名
心血管インターベンション技師(ITE)認定	5名
CDR(PM/ICD関連情報担当者)認定	1名
透析技術認定士	12名
アフエーシス技術認定士	1名
臨床ME専門認定士	4名
臨床実習指導者	7名
医療機器情報コミュニケーター(MDIC)認定	2名
日本DMAT隊員	2名
大阪DMAT隊員	2名

一実績一

当科における2017年4月1日から2018年3月31日までの業務実績を以下に示す。

《呼吸関連業務》

項 目	件 数
院内ラウンド	110回
《RCT(Respiratory Care Team)》	
患者依頼件数	42件
人工呼吸器離脱件数	27件
《睡眠時無呼吸治療関連》	
簡易PSG(Portable Monitor)	19件
終夜睡眠ポリグラフィ(PSG)	39件
CPAP外来	618件
CPAP導入	27件
CPAPドロップアウト件数	3件

項 目	件 数
CPAP転院	22件
ASV導入	1件
HOT導入	3件

《循環関連業務》

項 目	件 数
全体外循環症例	76例
緊急・準緊急症例	18例
(通常体外循環法)	55例
(脳分離体外循環法)	20例
(超低体温体外循環法)	1例
Off pump CABG	0例
EVAR(Endovascular aortic repair)	13例
TEVAR(Thoracic endovascular aortic repair)	5例
回収式自己血輸血	23例

項 目	件 数
ECMO(Extracorporeal membrane oxygenation)	31例
(VA ECMO)	30例
(VAV ECMO)	0例
(VV ECMO)	1例
IABP(Intra-Aortic Balloon Pumping)	40例

項 目	件 数
心臓カテーテル検査	953例
(緊急症例)	192例
PCI(Percutaneous coronary intervention)	382例
EVT(Endovascular Treatment)	30例
EPS(Electrophysiological study)	21例

項 目	件 数
ペースメーカ植込み術	27例
リードレスペースメーカ留置術	1例
ペースメーカ交換術	13例
ICD植込み術	2例
ICD交換術	5例
CRT植込み術	3例
CRT交換術	4例
遠隔ホームモニタリング導入	26例
デバイスチェック業務 (遠隔データ解析を含む)	1,728例

《代謝関連業務》

項 目	件 数
浄化センターHD	2,033回
ICU/EICU血液浄化	1,269回
特殊血液浄化	32回
LDL(Low density lipoprotein)	0回
ET(PMX)	2件
CART(Cell-free and Concentrated Ascites Reinfusion Therapy)	9件
末梢血幹細胞採取	7件
骨髄濃縮	1件
PTA(Percutaneous Transluminal Angioplasty)	54件

《その他機器、手術関連業務》

項 目	件 数
新規登録機器	64件
機器修理点検依頼件数	1,130件
ラジオ波焼灼療法	12例
(乳腺腫瘍)	4例
(肝臓腫瘍)	8例
整形外科関連自己血回収術(セルセーバー、救命センター含む)	57件
整形外科関連自己血回収術(オーソパッド)	80件

一今年度の成果と反省点一

当科における今年度の成果は、従来の体制から新体制(呼吸、循環、代謝、機器チーム)への組織作りに専念した結果、各領域においてさらなる専門性知識技術の習得が各スタッフへ意識付けられたことが挙げられる。また、分野別における専門資格認定取得にも意欲的に取り組み、各チーム内のみならずチーム間を超えた個々のスキルアップも得られる成果となった。一方で、チーム業務に専念するあまり、日常業務量の偏りがみられることがあり、業務の質と量の調整にやや課題が残る結果となり今後の反省点であると考えられた。

一來年度への抱負一

今年度の反省点を踏まえ部署目標でもある、①職種を超えた協働に積極的に取り組みチーム医療の一員としての自覚と行動力を培う。②医学の発展への貢献を目指し日々自己研鑽に努め、医療知識、技術の質の向上を図る。③医療資機材の効率的な活用および適正な在庫管理に注力し、病院の経営維持と改善に努めること。以上の3項目を目標に掲げ、来年度への抱負として行動していく所存である。